



祝・国宝

石清水八幡宮本社

秘祭「御神楽」荘厳に

石清水八幡宮本社10棟の国宝指定を記念して3月12日、記念講演と同宮に平安時代より伝わる秘祭「御神楽」の特別公開を文化センター大ホールで行いました。

御神楽は、神前で神楽歌や雅楽演奏、舞を奉納する祭事で、同宮の御神楽は、宮中や全国各地で行われる御神楽の原型と言われています。原則は非公開となっております。今回は同宮以外で上演されるのは今回が3回目。市内外から約950人が観覧に訪れました。

上演前には、関西大学の永井規男名誉教授が記念講演を行い、同宮本社の建築様式などについて説明。また、神戸大学の寺内直子教授による御神楽の解説も行われました。

御神楽は、同宮と八幡雅楽会が上演。歌い手による神楽歌の歌声や、雅楽を演奏する楽人が奏でる神楽笛や和琴、箏の音色が鳴り響く中、それらの長である人長が神楽の手に「人長舞」を披露。優雅な舞と音色に、観覧者で埋め尽くされた会場は荘厳な空気に包まれていました。

特別公開された「秘祭 御神楽」

男山やってみた1年

会議メンバー 活動報告兼ね催し

男山やってみよう会議のメンバーが1年間の活動を報告する「男山やってみよう祭り」が3月19日、男山中央センター商店街のだんだんテラス周辺で開催され、約260人の地域住民らが活動報告会や体験ブースなどに参加しました。

同会議は、男山地域を再生しようと市民公募メンバーらで平成27年3月に設置。ものづくりや防災などをテーマに5チームに分かれて活動してきました。

体験ブースでは、防災すごろくや牛乳パックを使ったエコクラフト作りなど、各チ

ームの取り組みが体験できたほか、八幡市子ども会議委員が考案した「竹つぎリレー」などがコラボレーション企画として行われました。

活動報告会では、各チームの代表が報告。DIYチームは、丸太イス作りで木材の運搬や加工などに地域の人や業者の協力が得られたこと、まち歩きチームは、まちを歩くことで地域の魅力を再発見できたことなどを報告。参加者たちは、各チームの生き生きとした報告に、笑顔を見せながら聞き入っていました。



「竹つぎリレー」を体験する参加者たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



起震車で地震体験をする参加者たち(くすのき地区)

地震に備え 1000人が訓練

今年で東日本大震災から5年、阪神・淡路大震災から21年が経ちました。震災の記憶を風化させず、地域の力で地震に備えようと、3月6日にくすのき地区、同月13日に美濃山地区で防災訓練が今年も行われ、両地区あわせて約1000人が参加しました。

同訓練は、東南海・南海地震の発生を想定し、各地区自治連合会などが毎年主催しています。防災行政無線から訓練開始の放送が地域に流れると、住民たちはそれぞれの避難場所へ集合。美濃山小学校に集合。訓練では、AEDの取り扱いや救助担架での搬送訓練、起震車による最大震度7の地震体験などが行われたほか、くすのき地区では、地震発生時に体勢を低くし、手で頭と首を守るシェイクアウト訓練、美濃山地区では、バケツリレーや消防車からの放水訓練も実施。参加者たちは、消防署員や消防団員らから指導を受けながら、熱心に訓練に取り組んでいました。

おやじバンド 熱いステージ

40歳以上のメンバーが半数以上のバンドが出演する「おやじたちのコンサートパートV」が3月6日、文化センター大ホールで開催され、同コンサート実行委員会が選考した市内外の11バンドが演奏を披露しました。

同コンサートは、第26回国民文化祭・京都2011で、八幡市イベントの一つとして実施されたのが始まり。以降、毎年開催されており、今回で5回目を迎えました。

ステージでは、出演バンドたちが、サザンオールスターズの「ピースとハイ

イト」といった最近の曲や、ザ・ベンチャーズの「ダイヤモンド・ヘッド」など、幅広い年代の曲を披露。会場に詰めかけた約800人の観客は、笑顔で手拍子をしたりしながら、大いに盛り上がっていました。

また、バンドの演奏終了後には、関西を中心にラジオなどで活躍する羽川英樹さんと、祇園のライブハウスで活躍していた西田基一さんと結成したおじさんデュオ「ザ・ほん」によるライブも行われ、コンサートをより一層盛り上げていました。



演奏を披露するおやじバンド